

温暖化に負けない黒大豆・小豆の栽培技術を構築

(農林センター)

- 30年前と現在の黒大豆・小豆の生育の違いを確認しました。
- 品質低下(黒大豆:不定形裂皮、小粒化 小豆:小粒化)と温暖化による高温との強い関係を解明しました。
- 現在の慣行より早期播種する作型が対策として有望です。



- 温暖化によって黒大豆が減収、小豆が小粒化し、生産が不安定になること(リスク)を確認
- 温暖化リスクを低減する作型(黒大豆:5月下旬～6月上旬播種、小豆:7月中旬播種)により、収量と品質(百粒重)の確保が可能
- 安定生産により府内の産地全体を底上げし、出荷量の拡大に直結

- 京都産の丹波黒大豆・丹波大納言小豆に期待される高品質(大粒、色つや等)商品の生産安定につながります。京の和菓子や京料理を支える食材として存在感が高まり、消費者が京都の豊かな食文化に触れる機会を増やします。